

2005 年11月の「勧告」に対する取り組み

2005年11月15日、「安全性向上計画」の取り組み状況等の確認を中心とした国土交通省の保安監査の結果、「安全性向上計画」の実施にあたって、一層の取り組みを進めるよう「勧告」を受けました。

◆勧告項目

安全性向上計画具体的実施計画の策定および着実な実施等

1. 風土・価値観の変革 2. 「事故の芽」等の報告に対する対応の推進 3. 教育・指導のあり方 4. 管理部門の業務の進め方 5. 情報伝達・共有のあり方 6. 事故再発防止に向けた取り組み
7. 運行面・設備面の対応

※「安全性向上計画の取り組み」「2005年 11月の「勧告」に対する取り組み」は、当社ホームページ(<http://www.westjr.co.jp/>)に掲載しています。

勧告	主な取り組み状況
安全性向上計画具体的実施計画の策定および着実な実施等（責任者と行程を明確にしたアクションプランの作成と実施状況の評価と見直し）	・項目毎に責任者と実施スケジュールを明確にしたアクションプランを作成し、各種施策を実施、毎月定例的に進捗状況を評価・改善（2006年1月） ・安全関連投資の権限移管など、安全推進部の企画機能の充実・強化（2005年6月） ・中期経営目標の見直し（2006年10月）
1. 風土・価値観の変革（社員の意見に対する具体的施策の実施）	・「安全ミーティング」などで得られた意見を踏まえ、教育の充実、仕組みの見直し、設備の改善などを順次実施 ・「社長特別補佐（安全統括管理者補佐）」の活動による実態を踏まえた業務改善（2005年6月）
2. 「事故の芽」等の報告に対する対応の推進	・「事故の芽」や「気がかり事象」の報告に対し分析を行い、事故の未然防止のための対策策定と水平展開を実施（安全報告へ名称変更2007年9月・リスクアセスメント導入2008年4月）
3. 教育・指導のあり方（現場における若年層への技術・技能の継承）	・新規採用の拡大や、OBの採用による指導者の配置など、技術・技能の継承に向けた教育体制を整備（2006年4月） ・訓練センターの設置や、シミュレータなど教育設備のさらなる充実により、実践的な教育を実施（2005年10月） ・鉄道安全考動館を活用した研修の実施（2007年4月） ・専門職制度の導入（2008年4月）
4. 管理部門の業務の進め方（部署間連携による、正確なデータ作成とデータ共有の仕組み構築）	・ATS等保安設備の仕様・基準の考え方や保守・工事・検査の仕組みづくりなどについて「保安設備検討委員会」にて検討し、業務運営全般にわたり、各部署が十分な連携をとれる仕組みを構築（2007年4月） ・地理情報システム（GIS）を活用した設備データの共有化と確実な管理（2007年10月）
5. 情報伝達・共有のあり方（関係支社間におけるトラブル情報等の共有化）	・事故情報や車両不具合情報の共有化を図るための仕組みの見直し、および本社・支社一体となったトレースの実施
6. 事故再発防止に向けた取り組み（事故の原因究明に向けた安全推進部の機能強化と、関係部署の協力体制構築）	・安全推進部の機能強化を図る体制整備を2005年9月および2006年6月の組織改正などにおいて実施 ・安全マネジメント体制の整備による安全管理のPDCAサイクルの充実（2006年10月） ・繰り返し発生する同種事故やミス防止に向け、関係各部署が根本原因の究明と、抜本的な対策を策定・実施 ・事故概念の見直しと多面的分析手法を導入（2008年4月）
7. 運行面・設備面の対応（余裕時分を吟味したダイヤ作成、予備車両の所要の検証）	・遅れに対して弾力性のあるダイヤとするため、全社的なダイヤ改正を2006年3月18日に実施し、以後の検証により修正を随時実施 ・車両運用の弾力性向上のため、京阪神地区の予備車両約80両の増備（2007年3月末まで）と所要の継続的検証